

[話題提供] 本栖湖における外来魚レイクトラウトの刺網捕獲状況

[要約] 2022年12月から2023年12月に、本栖湖で生息が確認されたレイクトラウトの刺網による捕獲調査を行い、計175尾のレイクトラウトが捕獲された。他魚種と比べて捕獲尾数は少なくなく、サイズの範囲も広いことから自然繁殖が進んでいる可能性が高い。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・三浦正之

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 本栖湖漁業協同組合、食糧花き水産課

[背景・ねらい]

2022年11月、本栖湖で北米大陸を原産とする外来魚レイクトラウトの生息が確認された。海外の湖においては本種の影響によって他の魚が顕著に減少した事例も報告されている。本研究では本栖湖におけるレイクトラウトの生息状況を調査し、他湖沼への分布拡大を防止するための注意喚起につなげるとともに、効率的な駆除方法を確立し本種の個体数抑制を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 2022年12月から2023年12月にかけて、目合100mmを主体とした刺網漁具を用いた調査を月に2回程度の頻度で計26回行ったところ、計175尾のレイクトラウトが捕獲された（図1）。
2. レイクトラウトの捕獲尾数は漁業権魚種として放流も行われているニジマスやコイと比較しても多いことから、本種はすでに相当数が生息していると考えられる（図1）。
3. 捕獲されたレイクトラウトの全長は最小24.0cm、最大92.5cmとばらついていたため、様々な年齢の個体が生息していると考えられ、既に自然繁殖が進んでいることが強く疑われる（図2）。
4. 捕獲された175個体のうち、胃の中が空でなかった136個体の95.6%において胃内容物に魚類が確認された。レイクトラウトは本栖湖において魚類を主食としていることが示唆される（図3）。

[成果の活用上の留意点]

漁具の種類や目合によって、魚種ごとの捕獲されやすさは異なるため、今回の捕獲状況が本栖湖での魚種組成をそのまま表しているわけではない。

[期待される効果]

レイクトラウトの個体数抑制及び駆除方法確立のための基礎資料となる。

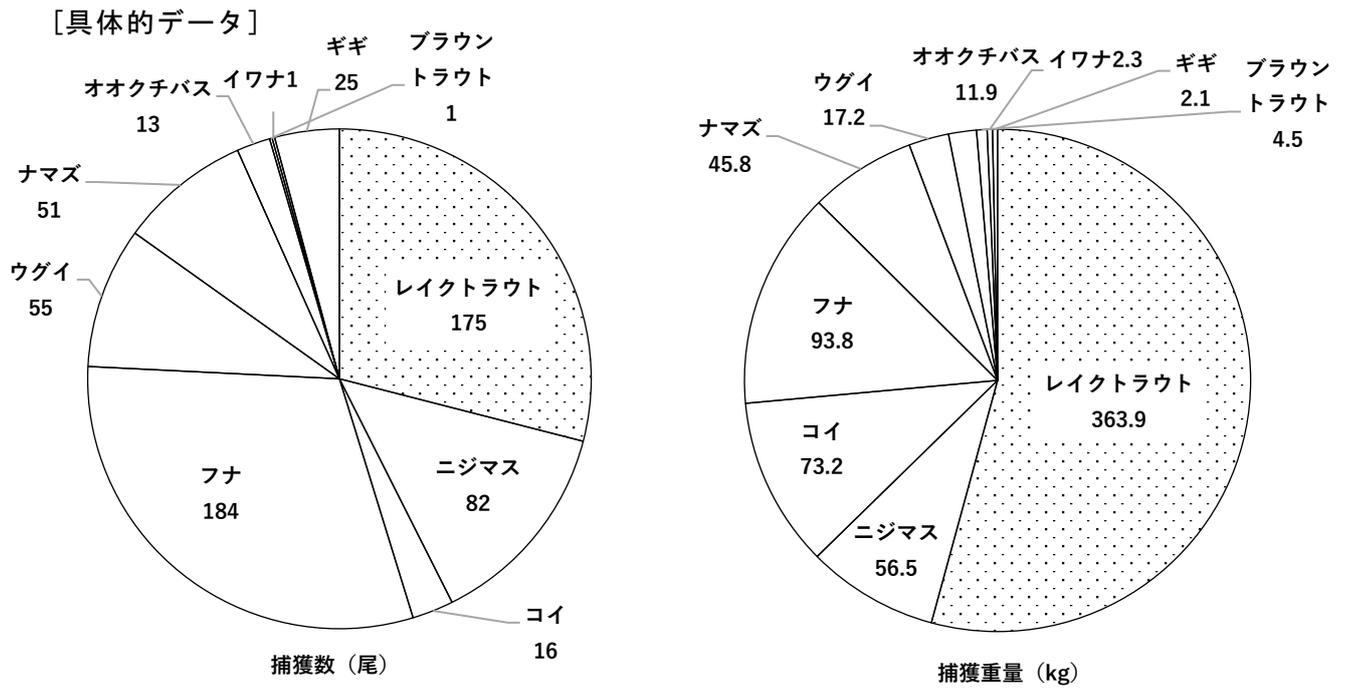


図1 刺網での捕獲状況

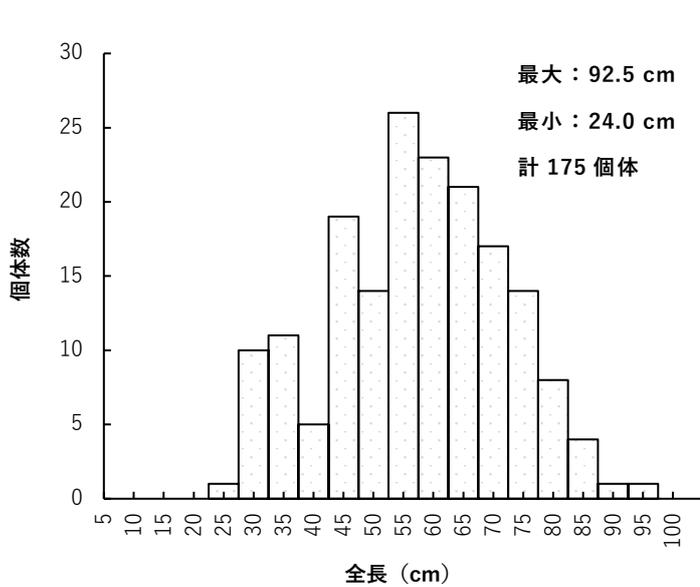


図2 捕獲されたレイクトラウトの全長の分布

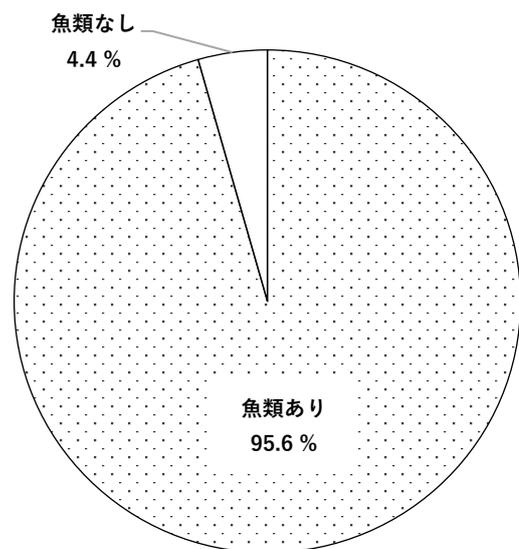


図3 捕獲されたレイクトラウトのうち胃の中に魚類が確認された個体の割合 (空胃個体を除いた計 136 個体)

[その他]

研究課題名：本栖湖における外来魚レイクトラウトの生息実態調査及び効率的駆除方法の確立

予算区分：県単 (総理研)

研究期間：2024 年度～2026 年度 (2023 年度プレ)

研究担当者：三浦正之、谷沢弘将、藤原亮、芦澤晃彦、岡崎巧